

名称	第 40 回無担保社債
発行日	2018 年 5 月 24 日
条件決定日	2018 年 5 月 18 日
発行年限	5 年
発行額	100 億円
クーポン	年 0.290%
資金使途	<p>当社が策定した環境対応船の技術ロードマップで予定する投資</p> <p>(新規および一部リファイナンス)</p> <p>(1) 液化天然ガス (LNG) 燃料船</p> <p>(2) LNG 燃料供給船</p> <p>(3) バラスト水処理装置</p> <p>(4) SOx (硫黄酸化物) スクラバー</p> <p>関連リンク：</p> <p>➤ 環境対応船の技術ロードマップ</p>
フレームワーク	<p>グリーンボンドフレームワーク</p> <p>1. 資金使途</p> <p>当社は、中期経営計画 (2018 年策定) に於いて中長期環境目標 (CO2 削減目標) を定めています。</p> <p>また、環境対応技術の長期的目標として環境対応船の技術ロードマップ (先のコメントと同様) を掲げています。本社債の資金使途を構成する各プロジェクトは、中長期環境目標の達成に資するとともに、環境対応船の技術ロードマップの重要な要素となっています。</p> <p>関連リンク：</p> <p>➤ 中期経営計画 (2018 年策定)</p> <p>(1) LNG 燃料船</p> <p>従来の重油ではなく、LNG を燃料に用いる船舶。重油焚きに比べ、CO2 (二酸化炭素) を約 30%、SOx (硫黄酸化物)・PM (排気微粒子) を約 100%、NOx (窒素酸化物) を最大で約 80%削減可能。</p>

	<p>(2) LNG 燃料供給船 LNG 燃料船に LNG 燃料を供給する船舶。</p> <p>(3) バラスト水処理装置 バラスト水（船舶がバランスを保持するための海水。通常荷揚げ港で船底のタンクに注水、荷積港で排出される）に含まれる海洋生物を処理する装置。海洋環境に影響を及ぼす水生生物の越境移動を防ぎ、生物多様性の保全に寄与する。</p> <p>(4) SO_x スクラバー 船舶のエンジンから排出される SO_x を含む排気ガスに海水を噴霧し、硫黄分を除去する装置。</p> <p>2. プロジェクトの評価及び選定プロセス 定められた基準に従い、対象となるグリーンプロジェクトを選定しています。</p> <p>3. 調達資金の管理 調達資金は適格グリーンプロジェクトに充当し、充当状況を管理します。 未充当資金については、現預金及び現金同等物として管理します。</p> <p>4. レポーティング 資金充当完了まで、資金充当状況並びに環境改善効果につき年次で当社ホームページ及び NYK レポート（統合報告書）にて公表します。また、第三者機関による発行後レビューを資金充当完了まで受けその結果を公表します。</p>
社債格付	AA-（株式会社 日本格付研究所）
適格性に関する第三者評価	<p>➤ 日本郵船が発行するグリーンボンドのサステナビリティに関するセカンドオピニオン（Vigeo Eiris）</p>

外部評価	<p>当社は本社債に関し、環境省の「平成 30 年度グリーンボンド発行モデル創出事業に係るモデル発行事例」に応募し、モデル発行事例として選定され、環境省とその請負事業者により「グリーンボンドガイドライン 2017 年版」※1との適合性についての確認を受けております。</p> <p>関連リンク：</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 環境省 平成 30 年度グリーンボンド発行モデル創出事業に係るモデル発行事例のガイドライン適合性確認結果について➤ 発行前報告書 <p>※1 グリーンボンドガイドライン 2017 年版 グリーンボンドの国内普及を目的とし、平成 29 年 3 月に環境省が策定・公表したガイドライン。世界的に広く参照される基準である国際資本市場協会のグリーンボンド原則との整合性に配慮しつつ、実務を担当する市場関係者の参考に資するよう、具体的な対応例や日本の特性に即した解釈を示しています。</p>
-------------	--

レポート

第三者機関による評価

- [Vigeo Eiris 発行後レビュー \(2020年3月発行\)](#)
- [Vigeo Eiris 発行後レビュー \(2021年3月発行\)](#)

資金充当レポート

2020年10月に全額充当完了しました。

- LNG 関連 (LNG 燃料船、LNG 燃料供給船) の一部に 86 億円充当
- 規制対応関連 (スクラバー、バラスト水処理装置) の一部に 14 億円充当
- 上記に占めるリファイナンスの割合：24%

インパクトレポート

	2018年度	2019年度
(1) LNG 燃料船	1 隻	2 隻
GHG 排出量	35,730 mt / 隻 / 年	
GHG 削減率	21%	
CO2 削減率	30%	
NOx 削減率	30%	
SOx 削減率	99%	
(2) LNG 燃料供給船	1 隻	1 隻
GHG 排出量	3,647 mt / 隻 / 年	
GHG 削減率	15%	
CO2 削減率	30%	
NOx 削減率	76%	
SOx 削減率	99%	
(3) バラスト水処理装置	1 隻	2 隻
処理量	348,000 mt / 隻 / 年	
(4) SOx スクラバー	—	9 隻
SOx 削減率	86% / 隻	

※インパクトレポートの対象期間は、当年4月1日から翌3月31日の1年間

※船舶数は、本社債発行から当該報告年度までの期間に資金を充当した累積の隻数（但し竣工前の船舶は含まない）

※環境改善効果は、第三者機関 Vigeo Eiris と合意した年次影響推計モデルを用いた理論値

※GHG 排出量、削減率は、メタンガスの排出を加味した数値

※LNG 燃料船は、Vigeo Eiris が定める「論争の対象となっている活動」に関する製品を輸送していない

その他

当社は Climate Bonds Initiative^{※2} が今後設置するワーキンググループに参加し、外航海運業者が発行するグリーンボンドの評価基準策定に協力しています。

※2 Climate Bonds Initiative

債券市場を通じて、気候変動問題の解決を目的とする国際 NGO 機関。グリーンボンドに関する情報発信と Climate Bonds Standard などのグリーンボンド評価基準の策定や、政府、金融機関および事業会社に対する政策提言などを行う。

- [ジャパン・グリーンボンド・アワードで環境大臣賞受賞](#)
- [2018年サステナブルファイナンス大賞の「グリーンボンド賞」を受賞](#)
- [英 Environmental Finance 誌の「ボンドアワード 2019」を受賞](#)

関連リリース

- [2018年4月17日付「グリーンボンド（第40回無担保社債）発行に関するお知らせ」](#)
- [2018年5月8日付「グリーンボンド（第40回無担保社債）発行に関するお知らせ\(2\)」](#)